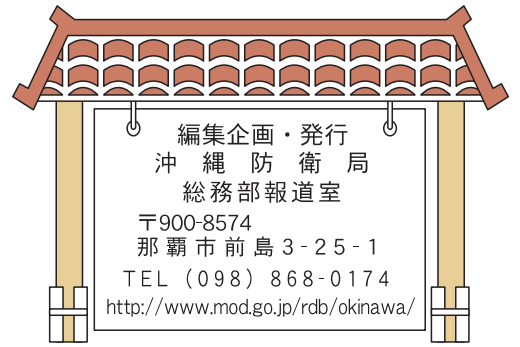




はいさい



編集企画・発行
 沖縄防衛局
 総務部報道室
 〒900-8574
 那覇市前島3-25-1
 TEL (098) 868-0174
<http://www.mod.go.jp/rdb/okinawa/>

オオゴマダラ

報道室 許田修二 作



初めての沖縄勤務



赤瀬 正洋

沖縄に赴任してから早
 いもので三ヶ月が経ちま
 した。急な発令を受けま
 して、あたふたと九月初
 めに「とまりん」にやっ
 て来たわけですが、周り
 の人にも恵まれ、何とか落ち着き、元気に過ごさ
 せて頂いております。

こちらの泡盛や食事も口にあっているようで、
 先日の東京出張の際には、「同期から「顔が（更に）
 丸くなったぞ。」と言われ、「気のせいだ。」と無
 駄とは知りつつ反論しながらも、ジョギングシ
 ーズを買わなければと思う今日この頃です。

県内も高速道路を行き来しながら、あちこち回
 らせて頂いておりますが、まだまだ役場などが中
 心といった状況ですので、機会を見つけてプラ
 イベートでじっくりと沖縄の自然や文化・伝統に触
 れていきたいと思っております。

私が沖縄に赴任することになって、なぜかまず
 観光ガイドを買いたく、他に聞くことはあるの
 はないかと思われるにもかかわらず、「沖縄へは
 何時頃行ったらいいの?」と赴任前の私にはな
 かなか答え難い気の早い質問をしていた家内と娘
 が、先月遊びに来たため、いわゆる定番の観光ス
 ポットをいくつか訪れました。

有名な美ら海水族館なども素晴らしかったです
 が、私が思いの外興味深かったのは、ネオパーク
 沖縄（名護自然動植物園）です。列車もあります
 が、個人的には、歩いて回った方が楽しいと思
 います。

特に、「フラミンゴの湖」で、頭上から落下する
 フンを避けつつ、結構大きめの鳥たちに囲まれ
 ながら、餌をあげることをお勧めします。まさに自
 然とのふれあいといった感じではありますが、
 ちよつとしたスリルを感じることは請け合いです。

また、まだ思いの至らないことが多いかと思
 いますが、沖縄防衛局の役割というものを十分肝に銘
 じて、全力で頑張っていきたいと思っております
 ので、宜しくお願い致します。
 （企画部長）



～那覇防衛施設局から沖縄防衛局へ～

改編に伴い、企画部は旧施設部が行っていた企画と周辺対策業務を担う組織として、地方調整課（旧旧のまま）、周辺環境整備課（旧施設対策第1課）、住宅防音課（旧施設対策第3課）、地方調整課整備室、環境対策室の5課3室をもって新たな気持

状況を御紹介します。

報告に盛り込まれたギンバル訓練場の返還に伴う設について、地元金武町の御理解をいただきました

ンセンにおける陸上自衛隊の共同使用について、納村の御理解をいただきました。

置・運用に起因する障害の防止、軽減、緩和に資生安定事業等への助成を行いました。主な完成施設比公園（民生安定事業）、伊江村に東江上地区集、沖縄市に中の町・ミュージックタウン（沖縄別事業）が整備され、地域住民の方々に有効に利

団体や地域の皆様の御理解を得るため、広報業務町村に対して「平成19年度版日本の防衛（防衛白）

これら案件の他にも沖縄米軍や自衛隊に係わる様々が一丸となって、県民の皆様の負担軽減のために

務所

島中部の2市2町2村に所在する防衛施設から派環境への影響が懸念される諸問題に対応すべく、また、嘉手納飛行場や嘉手納弾薬庫地区等におけについても本局と協力し、実施しております。

労働者の給与支払、福利厚生、職場環境の改善等、理機構と共同で行っています。

手納町新町・ロータリー地区の再開発事業は順調棟や生活サービス施設棟等はほぼ完成しており、事務所用建物が完成し、残る工事も順調に進んで

合される予定ですが、それまでの間、関係市町村ご協力を得て職員が一致団結し、頑張っています。

総務部

本年9月1日、総務部に契約課が誕生しました。

これは防衛施設庁の防衛本省への統合に伴い那覇防衛施設局が沖縄防衛局に改編される際に、建設工事等に係る「積算部門」と「契約部門」を分離することにより、契約業務の公正性と透明性の強化を目的とし、これまで建設部（現調達部）に置かれていた契約管理室を独立させ課組織として総務部に設置したものです。

同課の主な業務である工事の契約手続については、今年度から全ての工事において一般競争入札方式（公募型を含む）を適用することになりました。

また、入札にあたっては総合評価方式（価格に加え価格以外の技術的要素も総合的に評価し、落札者を決定する方式）を採用する工事も増えており、入札参加希望者の資格及び総合評価等の審査業務が増加しております。

このような状況において、契約課は限られた人員ではありますが、会計課及び積算担当課の協力を得て、建設工事等における発注の公正性の確保及びその品質確保の促進に向けて努力してきました。

来年度においても契約業務の更なる公正性、透明性の確保に努めてまいります。

管理部

管理部は去る9月1日の防衛省組織改編に伴い、旧事業部の業務課と旧施設部の一部8課2室で新たにスタートし、米軍等に関する事故の賠償業務のほか、防衛施設の取得・管理・補償に関する業務を行っております。

今年は特に、昨年返還された読谷補助飛行場、楚辺通信所及び瀬名波通信施設の物件撤去工事、土壌調査及び土地の引き渡し説明会等の業務で多忙を極めた1年でした。

これらの施設は、SACOの最終報告に返還が盛り込まれた案件であり、合計返還面積は約305ha（那覇新都心地区の約1.5倍）、土地所有者は約1,120名という近年にない大規模なものでしたが、とりわけ、通称「象のオリ」でその名を馳せた楚辺通信所の鉄塔等が跡形もなく撤去されたことは、一つの時代の終えんを見る思いでありました。

これだけの大規模返還施設の業務をスムーズに行うためには、関係者の皆様の協力が必要不可欠であり、読谷村長を始め関係地主会など多くの皆様のご理解・ご協力を得て、一部の土壌汚染の処理工事のため引き渡し保留となった地域を除き、今年中に大部分の土地の引き渡しができることに対し、心から感謝を申し上げます。

今年も残すところあと僅かとなり、管理部では、その他にも米軍等の行為により被害を受けた方々に対する賠償業務、防衛施設の借料支払い業務、漁業関係者に対する補償業務など多忙な業務を行ってまいります。引き続き関係する皆様方のご理解・ご協力をいただきながら、職員一同一生懸命頑張っていきたいと考えております。



この1年を振り返

調達部

本年9月1日の組織改編（防衛施設庁の防衛省への統合）で、建設部は調達部に名称が変わるとともに、建設工事の入札・契約事務を担当していた建設企画課契約管理室が、契約課として総務部に移行されました。そして、新たな業務として、旧施設部が行っていた提供施設の返還措置に係る物件撤去、土壌汚染対策、境界柵の設置、松食い虫被害木の除去等の工事の設計・積算等の事務を調達部が担当することになりました。さらに、旧防衛施設局と旧装備本部地方支部が統合されたことに伴い、旧装備本部長崎支部が担当していた沖縄における航空燃料調達に係る検査の一部事務が、当局調達部へ移されました。具体的には、装備施設本部で契約（中央調達）された航空自衛隊が使用する燃料を現地で受領する際に必要となる燃料の数量・品質に関する検査の事務を行います。

このように、組織改編に伴い、調達部の業務内容は若干変化しましたが、自衛隊及び在日米軍の基地等における施設整備（建設工事）を担うという従前からの基本的な業務につきましては変ることなく、調達計画課（旧建設企画課）、建築課、土木課及び設備課の4課体制で、計画、現地調査、設計、積算、現場監督及び検査等の業務を引き続き実施してまいります。

労務管理官

当室における今年の特出した出来事といえば、なんとといっても11月21日と30日に行なわれた全駐留軍労働組合（全駐労）による全国統一ストライキです。当局管内でも全駐労沖縄地区本部によるストライキが、県内の各米軍施設で実施されました。

全駐労による全国統一ストライキは16年ぶりということで、当室はもとより米軍関係者の中にも経験した者がほとんどなく、どのような事態になるのか全く予測ができない状況で行なわれました。

当日は早朝から、当室、嘉手納事務所及び機構那覇・コザ両支部の職員が、現場の状況を確認するため、主要基地のゲートに出向きましたが、組合の「整齐と実施する」との予告どおり、大きなトラブルも無く実施されたことで、担当者一同、ホッとしたところです。

全駐労によるストライキは今後も予定されていますが、事故等が無いことを祈りつつ、何らかの接点が見出され、ストの必要のない状況になればと願っています。当室はこれからも従業員、米軍、防衛局の更なる信頼の確立に向け、努力していきたいと思えます。

金武防衛事務所

キュンプ・シュワブの海岸線における普天間飛行場代替施設建設予定海域での環境現況調査が今年の4月下旬から行われており、最も現場に近い当事務所からも職員が同作業に参加しています。また、今年7月には今まで名護市東江にあった名護連絡所が建設予定地に近い辺野古区に移転したことにより、当事務所から常駐職員を派遣し連絡等業務に携わっています。同連絡所では、8月14日から1か月間行われた環境影響評価方法書の縦覧場所としても使用されるなど、この1年を振り返ると建設予定地を近くに抱える事務所として、主にそのことに関連した業務の多い年でありました。

また、地元のお祭りや呼びかけのあった休日の海岸清掃活動などにも積極的に参加し、地域の方々とのコミュニケーションを図るなど有意義な1年でした。

来年も金武事務所は所員一同心をひとつにして、防衛行政における地元とのかけはしとして更に頑張っていきます。

企画部

本年9月1日、防衛省の組織調整業務と旧事業部が行っていた施設企画課、施設対策計画課（防音対策課（旧施設対策第2課）に置かれる基地対策室、連絡調

ちでスタートしました。
今年を振り返り、主な案件の

①SACO関係：SACO最終ヘリコプター着陸帯などの移
②米軍再編関係：キャンプ・ハ
地元金武町、宜野座村及び恩
③周辺対策関係：防衛施設の設
するため、障害防止事業や民
設としては、うるま市に栄野
会施設（SACO交付金事業
米軍基地所在市町村活性化特
用されています。

④協力確保事務関係：地方公共
の一環として、県内全ての市
書）」の配付・説明を行いました
沖縄防衛局管内においては、こ
な案件があります。企画部職員
全力で取り組んでまいります。

嘉手納防衛事務所

嘉手納防衛事務所は、沖縄本
生ずる事件・事故や騒音等生活
迅速な情報収集に努めており、
る侵害物件等の排除や巡回業務
さらに、約5,500名の駐留軍等
労務管理業務についても労務管
沖縄防衛局の移転先である嘉
に進み、ロータリー地区の本局
新町地区ではサンエー食品館や
います。

当事務所は来春には本局に併
を始め、地域の皆様のご理解と
ます



ゆんたくサロン

私とボウリング



環境対策室 具志堅 一雄

昭和48年にボウリングと出会い、以来ボウリングを愛好し、数年後には県ボウリング連盟の宜野湾ボウル支部に登録するまでになりました。当時は160点前後のアベレージでしたが、那覇防衛施設局の第1回ボウリング大会では、個人賞（ハイシリーズとハイゲーム賞）を独り占めしてしまい、厚生係長が私の所へ「1人一賞にしてもらいたい」と慌ててお願いに来たこともありました。その後の局の大会でも十数回の個人賞を取ったと記憶しています。

昭和63年から約13年半ボウリングから離れましたが、平成13年9月に知人からリーグ戦に誘われボウリングを再開し、唯一の趣味として週3回のボウリングを楽しんでいます。

そのような中、10月30日のリーグ戦で「まさか」の出来事が起こったのです。

その日の2ゲーム目、気付けば9フレまで連続ストライクで、10フレの1投目を迎えていました。そこで突然のアナウンス！「41番レーンの具志堅さんが残す10フレで300点のパーフェクト達成となりますので、皆さんご声援下さい」。これを聞いたリーグ戦の各選手やギャラリ約70名が集まってきました。1投目、足が震え「うまく

投球できるのか」との思いが頭の中をよぎりましたが、基本である「フォー△崩さず、ボールを投げきる」ことに集中し、見事ストライク。直後、会場からは割れんばかりの歓声。2投目ではますます足が震え、心臓の鼓動が聞こえてくるようでした。「まず落ち着いて」と自分自身に言い聞かせ、投げきったところ、またまたストライク。観客は騒然とし「あと1回のコール」。ここで、「自分には、300点という夢はこの時を逃がしたら、二度とないのかも知れない」と思い、絶対にストライクを取るとの気持ちから、不思議と足の震えは止まり、冷静になりました。すると、まさか、まさかのストライク。思わず後ろを振り返り万歳を繰り返す私に、70名の観客から割れんばかりの拍手。その1人1人からの握手せめて感極まる一日でした。家に帰り、愛妻にそのことを話したら、「貴方はボウリングの話をするときに一番幸せそうネ」と言われました。

これからも、ボウリングを愛好し、生涯スポーツとしてやっていきたいと思っています。



米軍等の行為により被害を受けた方々へ

事件・事故に関する情報の一報

損害賠償請求手続きのお問い合わせ先

沖縄防衛局 管理部 業務課 事故補償係

電話番号 098-868-0174 内線 (411~414)

●米軍等の行為が公務上の場合

- ・被害者の受けた損害を日本国政府が賠償します。
- ・損害賠償金を請求できる期間は事故が発生したときから3年間です。

●米軍等の行為が公務外の場合

- ・原則として、交通事故の場合における保険解決のように直接加害者との間で示談で解決することになりますが、示談により解決が困難な場合、加害者に代わって合衆国政府が補償金の額を決定し、請求者（被害者）の同意を得て支払います。
- ・補償金を請求できる期間は、事故が発生したときから2年間です。